

平成 18 年 9 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社システムソフト
 代表者名 代表取締役社長 吉尾 春 樹
 (J A S D A Q ・ コード 7 5 2 7)
 問合せ先 執行役員管理部長 緒 方 友 一
 T E L 0 9 2 - 7 1 4 - 6 2 3 6

平成 18 年 9 月期通期 (連結・単独) 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 5 月 10 日付当社「平成 18 年 3 月期決算短信 (連結)」及び同日付当社「平成 18 年 3 月期個別財務諸表の概要」において発表いたしました平成 18 年 9 月期通期 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日) の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 18 年 9 月期通期業績予想の修正 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

(1) 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,180	50	48
今回修正予想 (B)	860	△582	△546
増減額 (B-A)	△320	△632	△594
増減率 (%)	△27.1	—	—

(注) 平成 18 年 9 月期は決算期変更により 6 ヶ月決算となり、「前回発表予想」欄は発表時の中間期予想を通期予想に読み替えて記載しております。

なお、当期より連結損益計算書を作成しているため、前期実績は記載しておりません。

(2) 単独業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	800	75	72
今回修正予想 (B)	616	△429	△431
増減額 (B-A)	△184	△504	△503
増減率 (%)	△23.0	—	—
(ご参考) 前期実績	587	6	5

(注) 平成 18 年 9 月期は決算期変更により 6 ヶ月決算となり、「前回発表予想」欄は発表時の中間期予想を通期予想に読み替えて記載しております。また、「前期実績」欄には前中間期 (平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日) の実績を記載しております。

2. 修正の理由

当社は生損保・大手情報通信企業などのお客様を中心としてシステム開発事業を行ってまいりましたが、前期末において不動産情報サービス会社 株式会社リビングファーストを子会社化し、不動産関連情報の配信事業（不動産ポータルサイト「CatchUp（キャッチアップ）」）を立ち上げる準備をすすめてまいりました。

当期7月に当該サイトをオープンいたしました。今後はこの事業の推進を当社グループの重要施策とし、不動産に関するあらゆる情報を、利用者に分かりやすく使いやすい形で提供することで、「利用率No.1の不動産ポータルサイト」となることを目指してまいります。

当期におきましては、このポータルサイト事業の展開を集中的にすすめた結果、当初の計画に比して次の内容で売上高の減少、先行投資的な開発費の増加、積極的な販売促進費・広告費の投入による販売費の増加を見込んでおります。

まず、売上高につきましては、新規の開発作業を不動産ポータルサイトのシステム開発と主要コンテンツの強化に注力した結果、親会社 株式会社アパマンショップホールディングスより受注し当期末に納入を予定していた案件のうち約7割が、次期にずれ込む見込みとなりました。

また、子会社 株式会社リビングファーストにおいても、ポータルサイトの広告獲得の営業部門としての動きを強めたため、既存事業の売上高が計画を下回る見込みです。

この結果、売上高は連結で860百万円（前回予想比320百万円減）、単独で616百万円（前回予想比184百万円減）となる見込みであります。

また、ポータルサイトの開発に伴い、今後の機動的な活用も可能なデータベースの構築を積極的にすすめたことなど先行投資的な開発費用が発生し、当初の計画を上回る見込みです。これらによる影響額は、連結で77百万円を予想しております。

加えて、ポータルサイトのオープンにあわせて、新聞広告等を使って商品・賞金が当たるキャンペーンを展開したこと、サイトへの訪問者数を増やすSEO施策を行ったこと、秋のシーズンに向けて、サイトの認知向上を図るための新聞広告、テレビコマーシャル、街頭ビジョン、交通広告等の実施を決定したことなどにより、当初の計画より販売促進費・広告費が増加する見込みです。これらによる影響額は、連結で290百万円を予想しております。

以上により、経常利益は連結で△582百万円（前回予想比632百万円減）、単独で△429百万円（前回予想比504百万円減）、当期純利益は連結で△546百万円（前回予想比594百万円減）、単独で△431百万円（前回予想比503百万円減）となる見込みであります。

当期の損益については当初計画を大幅に下回りますが、戦略的な先行投資が主な要因であり、これにより来期以降の事業展開が強力に加速されるものと考えております。

なお、従来のシステム開発事業につきましては、売上高506百万円（計画比31百万円増）、営業利益21百万円（計画比6百万円増）と、ほぼ計画どおりに推移する見込みであります。

なお、来期につきましては、従来のシステム開発事業は安定して推移するものと予想しております。ポータルサイト事業につきましては、上期においては引き続き先行投資的な費用の投入を計画しており収益面は厳しいと予測しておりますが、下期においてはコンテンツ掲載の有料化により収益が改善するものと見込んでおり、通期での黒字化を目指してまいります。

※ 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上